
思い

シノ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

思い

【著者名】

シノ

【あらすじ】

ずっと会ってないとと思っていた君への想い。言葉にすら「」とは難しけど、この想い君に届けたいから、今伝えるよ。

(前書き)

突然始まつて、突然終わつてます。
また今度書き直すかもしけんませんが、とりあえずじゅ。

僕らは生まれた場所は違うものの、小学校に入った頃からずっと一緒に居た。

太陽が昇っている時は僕らが離れてることなど無いと言えるほど、休み時間や、放課後も隣を見るとアイツが笑っている。そんな毎日を命の終わりまで続けると僕らは思っていた。

それが当然で当たり前であつて、言葉にしていなかつたがアイツもうだと分かるほど

僕らの距離は近かつた。そんな日々を過ぎていて、ある日どんなことが切っ掛けかも覚えていないが、将来を誓い合つ結婚というものを約束した。僕らその日から今まで以上に明日が楽しみになり、大きくなるのが嬉しくて仕方なかつた。

ずっとやつて過ぎると思っていた。でも、僕らの世界の、社会のシステムはそうは出来ていなかつた。中学になると僕らは引き離された。子供の多感な年ごろに男女は一緒に居るべきではない。家族から引き離されて学校の寮に全員が入る、男子は男子中学に、女子は女子中学に学力で決められて入学する。学校がある都市は指定され、学園都市として指定される。学生の間はその学園都市以外との接触を制限され、昔の友達と会うことも電話することも手紙を送ることも許されない。学園都市は数が決まつてあるため地元を離れなくてはいけないことが多い。高校までは絶対に行くこと、大学ならば、男女の接触が許されるらしい。

しかし、僕らが約束した結婚、それに関するお付き合いは国が許可を出すといつものらしい。いや、許可を出すのではない、国が決めるのだ。生活や仕事などの時間帯、趣味や性格、給料や他にもいくつかの項目があるらしいが、それをもとに国が婚約者を決め、半月後に双方に結婚できないという具体的な理由がない限り、婚姻届

が自然と受理され、結婚式を挙げるという流れになつていてるらしい。そう、僕ら一人が結婚出来ないかもしない、アイツの隣に居るのは僕じゃなくなるかもしないのだ。

僕はそれをアイツと離れなくてはいけなくて悲しくて仕方がなかつた、中学の社会システムという授業の中で知つた。知つた瞬間、アイツの笑顔とあの映画の新婦の笑顔とが離れていくのを感じた。悲しいというような感情は持つてなかつた。僕らが今まで歩いてきた道、先にあるはずの笑いあつてる風景が黒い雨に汚されて見えなくなつた。そして僕の意識も同じようになつて真っ黒に侵され、途切れた。

目が覚めた僕は先生に何度も何度も質問した。アイツを隣に居させるためにはどうすれば良いのか、先生が嫌そうな顔をしても毎日のように通り聞き続けた。アイツとの約束が大事だつたんじゃない。僕のエゴが、衝動が僕を突き動かした結果だつた。明確な答えはもらえなかつた。でも、国に関する仕事に付いたらどうだ?と言われた。

それからの生活は特に言つことなどないだろ、目を覚まして天井に張つてある「約束」と書いてある文字を見てから、同じ物を見るまで人間関係を保ちつつ勉学に励んだ。

なんでこんなに頑張つてるのだろうと自分でも分からないま。ただただ何かに急かされながら、大学までの6年間を過ごした。6年という長い時間を確かに会長やキャプテンなども務めた。それなのに思い出が少ないように思つ。今こうして卒業の答辞を話しているのに、学校で過ごしてきた時間よりも、幼くて白黒で途切れ途切れなアイツと過ごした日々が僕の頭を占めていた。あと少し、あと少し、待つてくれ。そんな気持ちで早く終わつてしまいたいと本当は思つてはいけないことを真剣に願つた。大学にもきっとアイツは居ないだろ。聞けないから同じところに通おうとするのは失敗

したのだ。それでもこれからはアイツに連絡も取れる、アイツに会う機会が出来る、それだけでも嬉しかった。まだ僕らの将来は分からぬし、離れていた長い時間を埋めるのも大変だろう。でも、それ以上にアイツの笑顔が、変化が、過ぎてきた日々の話を聞くことが楽しみだつた。

あと少しだよ、会いに行くから待つてて、僕はこれから君のために頑張るから、近くで見ててくれ。

(後書き)

最後まで読んでください、ありがとうございます。

これからもどうぞよろしくお願いします。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8895z/>

思い

2011年12月27日23時39分発行